

よろずおぼえがきちよう

「萬覚書帳 日高郡津久野浦岡右衛門」

元禄14年(1701)に書き起こされた塩崎家当主の備忘録的なメモで、展示部分は宝永4年(1707)10月4日の津波後遠くない時期に書かれたものと思われます。

地震・津波により周辺各地が大きな被害を受ける中、津久野浦では中心部には特に被害がなく、近年開発された海辺の「新田分」にある家が床上5尺(約1.5m)程度の高さまで浸水し、壁が破損して諸道具が流失したとあります。

富士山が噴火したことも書かれています。

* 「日高町津久野の宝永・安政津波記録と紀州藩の「日銭」徴収」の【史料一】